

制度検討特別委員会等での検討状況について

平成30年2月

第二次試験の適正化等、第8期技術士分科会で決定がなされたものがある一方で、継続して検討すべきとして、今期継続して議論をすべき課題がある。それらについて、第9期ではこれまでに以下のような議論が行われた。

○制度検討特別委員会

第1回：平成29年6月6日

・今期に残された各課題を確認し、それぞれの検討方針について議論

（前期から残された課題）
 主な議論テーマ

- 技術士資格の国際的通用性
- 技術士資格の普及拡大・活用促進
- 継続研鑽（CPD）の在り方、更新制の導入
- 技術士補の在り方
- 第一次試験の適正化
- 総合技術監理部門の在り方について

第2回：平成29年7月14日

・継続研鑽の在り方や更新制の導入、技術士補の在り方について議論

第3回：平成29年10月5日

・制度全体としての最終的な目標となるものを1つの軸とし、現在の課題整理で技術士の全体像が見えるかを検討

⇒『技術士資格の国際的通用性』を軸に設定し、今後の検討方針について議論

⇒国際的通用性の面から各課題を整理するため、作業部会の設置を決定

・技術士資格の活用について

第4回：平成30年1月24日

・国際的通用性検討作業部会の報告

・技術士資格の活用について（ヒアリング調査等の方針について議論）

○国際的通用性検討作業部会

（目的）技術士が国際的に社会の中で活躍するためには何が今ネックとなっており、どんな制度が必要なのか、課題を明確にすることを目的としている。

実際の各課題（制度）の検討は、作業部会の調査を受け、国内の技術士資格の状況等も踏まえて制度検討特別委員会で議論する。

第1回：平成30年1月12日

・“国際的通用性”とは（国際的通用性を持つ資格にするための目標）について

・技術士制度の国際的通用性に関する課題について議論

・今後の議論・調査（海外のエンジニア資格、国内の国際的通用性に対する認識等について）方針の決定